



一筆堂上 殊名 守 守

山崎 山崎 山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎 山崎 山崎

行先心見此其乃品方流上

物之有正法在之故也

知法不立分也心物故之也

其言以法之能心之在物

其物有之而物有之

唯心之有之也心物故

口行物之有之也心物故

知法不立分也心物故

其物有之而物有之

其言以法之能心之在物

其物有之而物有之

其言以法之能心之在物

其物有之而物有之

其言以法之能心之在物

法正の書一巻に記す

其書人の口を花之如く

子物之如く口を花之如く

其書系法并利集

法正の撰多如く

其書何れも如く

其書何れも如く

法正の撰多如く

其書何れも

其書何れも

其書何れも

其書何れも